

韓国の旅

さくら研修旅行



昨年の吉野山研修旅行に
ついで第二回目の研修旅
行。二八名が参加した。九
日夜乗船出発、一二日朝帰
着という船中泊二夜、ホテ
ル一夜という足掛け四日丸
二日という旅日程。釜山、
鎮海、慶州という桜の名所
を堪能した。
画手紙の上手な方が何人も
ある。下図は最高齢八〇歳

何組かの夫婦カップルを
含む総勢二十八名の韓国へ
の旅は、四月九日夜下関港

韓国桜紀行

六戸昌和

紀行文投稿

台の穴戸さんの作(紀行文
投稿者)。上右は鎮海余佐山
公園にて。下右は余佐山公
園。上左は慶州古墳公園。
下左は、慶州の焼肉昼食。

を関釜フェリーで発ち、翌
早朝釜山港へ着岸した。八
時三〇分チャーターのバス
で桜を見に鎮海市へ向け出
発。旅行中のガイドは日本
語の堪能な黄(コウ)さん
(韓国女性)で、時折冗談
も交えた語り口は、道中の
雰囲気常々明るく盛り上
げて呉れた。人口三七〇万
の釜山市では、林立する高
層ビルや田園地帯の整備さ
れたビルハウス群に圧
倒された。

折から「桜まつり」開催
中の鎮海市では、桜に対す
る行政の支援策が十分に伺
える、市中至るところ桜並
木の街路樹に彩られ、まさ
に全市が万葉(ばんだ)の
桜に埋め尽くされた観には
瞠目した。

桜の名所の長橋山公園の
爛漫の花を満喫し、余佐川
畔の見事な桜トンネルと、
川沿いに咲く菜の花の色彩
のコントラストの競演にも
酔い痴れた。次に訪れた帝
王山公園では三五〇段の石
段を登って展望台へ立った
時は、体力の消耗も甚だし
く、眼下の景観を眺める余
裕すら無かった。

参詣だった。慶州国立博物
館では、巨大な梵鐘(エミ
シノ鐘)や、王族たちが眠
る古墳公園などを巡り紫
水晶や青磁の窯元など朝
鮮文化の伝統を継承して
いる工房を訪ねたりもし
て、一二日朝、雨の降る下
関港へ無事帰着、延べ四日
間の旅を終えた。港下関の
市民の一人として、釜山の
新鮮で豊富な魚介類を、屋
台でも商っていた巨大な
魚市場での衝撃は絶大だ
ったし、秀吉が朝鮮へ侵攻

した折、徹底抗戦した李
舜臣の軍艦(亀甲船)の
ことも強い印象として残
っている。



松枯れ防止実験



昨年(二〇〇九年)
の七月にEM菌の第一
回投与を開始してから
丸一年を過ぎた。今年
七月初めに梅雨が明け
てから、炎熱の猛暑が
始まった。もう松が真
つ赤になっっているの
はないかと心配しなが
ら八月七日、訪れた深
坂では意外に皆元気だ
った。写真の一七番は、
これが枯れなければEM
は効果があつたと認
めると、理事長が太鼓
判を押した松だ。今年
新芽が出るのが遅く、
やきもきさせたが、短
いが芽が出た。とにか
く今年まで命脈を保っ
ている。EMありでは
昨年九月で一〇〇%、
一月で七八%の生存
率、EMなしでは九月
で五〇%、一月も同
じく五〇%だったが、
現状はEMの有無いず
れも、そのまま、生き
残っている。一七番だ
けは、今年三月一四日
にもEMを投与した。